

整備の行き届いた、おもてなしの心。

「キゴ山」コース 石川県 No.18
JOA 公認 No.769 3.5km 10 ポスト

完璧メンテナンス

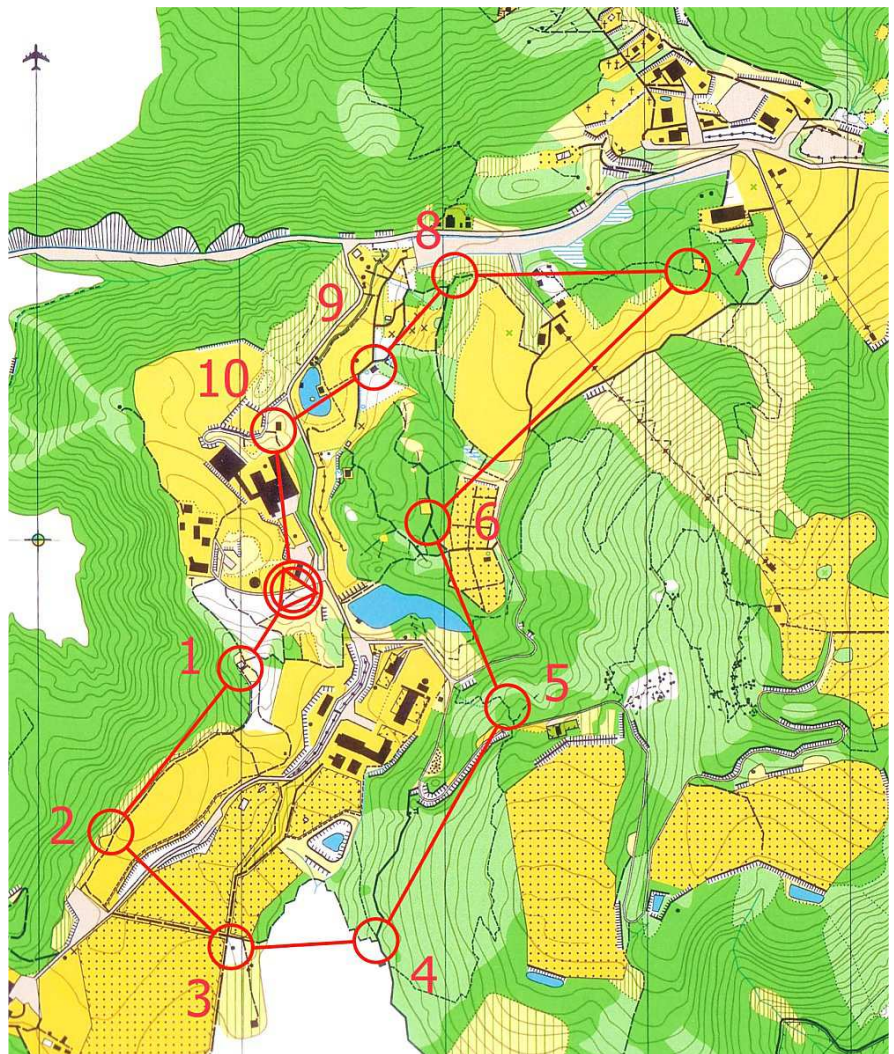
パーマナントコース運営管理ではピカールの石川県。コース設定の大幅刷新が続き、全コース踏破を達成したあとも何度も足を運びたくります。今回紹介するキゴ山コースも2010年2月にこれまでの設定とは大きく異なるコースに生まれ変わりました。2000年4月の踏破から干支のひと巡りする12年ぶりの再訪です。

新幹線でのぞみとひかりを乗り継ぎ、米原駅経由で金沢へと向かいます。米原駅からの特急しらさぎの指定席はあいにく満席。2時間の旅路をたっぷり楽しむため、奮発してグリーン車に乗り込みます。1人向けの広々とした座席は快適そのもので、パーマナントコースを回りまくっていた20代の頃には考えられない贅沢を堪能します。



絶景の第1ポスト

金沢に到着した初日は観光に充て、借り続けているレンタカーで翌朝スタート地点の金沢ふれあいの里研修館を目指します。オリエンティアも車ではカーナビに頼りきり、道迷いなく目的地に到達してしまうというもの、何だか面白い時代になりました。朝8時前には現地に到着。早朝ということもあり、研修館の事務所には寄らず、広島在住の西久保光二氏から事前に頂いて



いたマップを使って歩き始めることにします。

更新前のキゴ山コースのスタート地点は、No.1の戸室コースと同じ医王山スポーツセンターでしたが、センター前には戸室コースの案内板のみが立ち、キゴ山コースの案内板は設置されていませんでした。平成7年の開設から15年経った今回の更新で、初めて製作された案内板が研修館の南側に設置されています。マスターマップも問題なく判読できるのも、4月にメンテナンスされたばかりのため。この安心感が石川県のコース踏破にはいつもあるのが嬉しいところです。最近は少なくなった、案内板に張り付いてコース図を写し取る作業を行い、8時7分にスタートします。

いきなり絶景

新装なったコースは全3.5kmと、以前のコースと比べて1.5km短縮されたこととあわせ、キゴ山自体にも登らなくなり、西麓の山間を巡るより平易な設定となっています。全10箇所のポストのうち、6箇所は新たな場所に移設されました。

展望台へ続くこもれ日の路と名づけられた遊歩道からコースが始まります。2分程度でピークに到達すると、金沢市内が一望できる大パノラマが広がっています。晴天のこの日の景色は雲の高い秋空のもと、太鼓判の絶景でした。ポストも碧空を背景に清々しい顔をして立っています。ここは以前のコースでは5番ポストに設定されていて、記

号も同じまま転用されています。しかし、12年前の写真を見ると、雑木林が背景の展望を遮り、現在とは様相が全く異なっています。整備がスポットの価値を上げたすばらしい好例と言えるでしょう。

「危険クマ出没」の立て看板が真新しいことに少々戦慄を覚えながら第2ポストへ。旧マップには記載のない新道を尾根伝いにゆるゆると歩いていきます。オープンスペースを左手に見ながら進むと、2基の長ベンチの手前でポストを発見します。

第3ポストは牧場の只中を直進。ルートの入口が柵に閉ざされていて進入不可となっていました。ここを行かないことには先に進めないこともあり、失敬して柵を乗り越えていくことにします。雄大な景色の中に広がる牧場は、それだけで心を癒してくれる効果を持っています。牧場を抜けた先にある松林の下に三兄弟のような岩石があり、その前にポストが置かれています。



コスモスと第3ポスト

近くにはコスモスが咲き乱れ、秋の景色を演出しています。このコスモスに釣られて牧場に沿って歩いていってしまうと第4ポストには到達しません。林の中に下っていくルートをしっかり見極めることが肝心です。このコースではあまり味わえないOLらしい小径をたどるこの区間。クマ注意の看板を見た後では、やや心細さも感じます。餌不足の昨今は「どこに出てもおかしくない」状況でもあるそうですから…。とはいえそんな懸念は杞憂に終わり、分岐に立つ第4ポストに無事到達します。

途中に設置された柵にも再びクマへの注意を呼びかける表示がある中、幅の広い歩道から舗装道路に抜け、ヘアピンカーブをのぼり気味に進んでいきます。この道路が右に更にカーブしていく先で下る小道の入口があり、入ると間もなく第5ポストです。以前の第6ポストで、ここは時間の流れを感じさせない佇まいを見せています。前回は

ここからキゴ山を目指して上っていったのですが、今回はここが最高地点。第6ポストへと下っていきます。

前半戦を25分で終え、快調な足取りのまま、後半戦最初のポストは体験農園が目標です。道路を蛇行しながら進んでいくと、その農園越しに遠くから紅白の塗り分けが見えてきます。

第7ポストはこのコースの最長区間。それでも所要は10分足らず。尾根から「ミズバショウ」の表示に従って小道を下り、小さな土堤沿いに進むと、先ほどまで歩いてきた道路に戻ります。ススキの穂がやさしく揺れる中、キゴ山に沿って歩くこの区間。道路が舗装されていなければ、里道としてどれだけ良かっただろうと思わずにいられません。小道に入り、分岐から左手を覗くとポストが目に入ります。旧第2ポストですが、環境の変化はほとんどありません。

西に向かい、林を抜けると市営医王山スキー場のペアリフト乗り場に到着。シーズンオフのスキー場らしく、静まり返る帯は時間が止まったかのよう。丘を越えるように進む第8ポストまでのルートはやや分かりにくくもありますが、方角さえ間違えなければ困難なく発見できるでしょう。旧第3ポストの転用ですが、こちらは周囲が様変わり。草が繁茂し、足元に丸見えだった駐車場がすっかり見えなくなりました。

下った先にある緑地広場の一帯は、暖かな日差しに誘われて、多くの散策者で賑わいを見せています。第9ポストはウッドハウスのような公衆トイレの脇に控えめに置かれていました。

小さな池を回りこみ、坂道を登っていくと、これまたトイレの横で最終ポストを発見します。ふれあいの里研修館の裏手にあたり、ゴールも目の前です。ゴール時刻は9時3分。所要56分で終了です。

穏やかな自然公園

このあと研修館の事務所を訪れマップを求めました。対応してくれた事務員の方はオリエンティアの訪問を受けたことがないようで、最初は思案顔。現物を見せると納得され、ストックから取り出して来てくれました。「協会の方から預かってはいますが、ほとんどやる方がいないんですよ」という、これまで何度聞かされたか知れないコメントを頂戴し、「宣伝しますね」と返して後にしました。



スタート地点の金沢ふれあいの里研修館

一向一揆に備えた佐久間盛政(戦国～安土桃山時代の武将)が築いた警護の砦の「警護」がなまって「キゴ」になったという説が残るそうですが、今は医王山県立自然公園に設定され、訪れる人の心が洗われる自然を満喫できる穏やかな環境が整っています。

パーマネントコースファンでしたら、同じ日に戸室コース、医王の里コース、卯辰山コースもあわせて4コース制覇も十分可能です。

(2012年10月14日 踏破)
(大高竜亮)



「警護山」が「キゴ山」に